

年度	学年	教科等	指導案URL	資質能力	児童・生徒の姿	指導の具体
R4	中1	音楽	Microsoft Word	授業構想力	○中学校では、初めての楽器を使った創作活動であったが、戸惑うこともなく積極的に取り組むことができた。	「百人一首大会」に向けてクラスター活動が盛り上がっている時期に、百人一首の和歌を題材として設定した。
R4	中1	音楽	Microsoft Word	授業構想力	○自然に抑揚をつけて和歌を朗読したり、和歌の意味を考えて楽器の選択や音の出し方の工夫をしたりすることができた。	和歌のもつリズムや節を感じ、その意味や背景を理解して創作活動が行えるようにした。
R5	複高	音楽	06_1_音楽科学	授業構想力	○アングルンとハンドベルとを聴き比べをしながら楽器の構成の共通点を探す姿が見られた。	実際に2つの楽器の音を出しながら、楽器の特性を見つけたり、音色の特徴を味わったりする活動を設定した。
R5	複高	音楽	06_1_音楽科学	授業構想力	○竹素材同士の楽器を聴き比べ、音色の違いを聴き取る姿があった。	ICT機器を活用して、東南アジアと日本の様々な竹素材楽器の音色や演奏法を調べる活動を設定した。
R6	小3	音楽	06_1_音楽科学	授業構想力	○音の高低・順番を意識しながら、これまで聞いてきた西洋音階とは違う日本音階の雰囲気を感じ、深く聴き、一音の響きに集中して聴く姿があった。	西洋音階と日本音階を一つ音ずつ卓上ベルで聴き比べ、「同じ」「違う」を聴き分けながらペアリングしたり、順番に並べるグレーディングをしたりする学習活動を通して、聴感覚を働かせる活動を実施した。
R4	中1	音楽	Microsoft Word	授業実践力	○グループのみで音が共有することができるため、他のグループの音に邪魔されることなく、自分たちのアンサンブルに集中して創作活動ができた。 ●タブレット端末で検討できる楽器の音色の種類が少なかった。	タブレット端末とヘッドホンを使い、グループで楽器の音を試しながら創作活動を行った。
R5	複高	音楽	06_1_音楽科学	授業実践力	○自分が演奏する箇所以外にも、友達が奏でている間、演奏を集中して聴く姿勢があった。	一つのまとまりのある曲になるように、集中して聴きながら演奏できるように、全員が見ることができるように、一つの数字譜を共有できる手立てをとった。
R5	複高	音楽	06_1_音楽科学	授業実践力	○グループで話し合いをしながら、思いや考えを伝え合ったり、演奏を繰り返しながら、表現の工夫をすることができた。	話し合いと演奏する時間に偏りがないように、言葉で伝え合ったあとすぐに演奏できる環境を設定した。
R5	複高	音楽	06_1_音楽科学	授業実践力	●東南アジアの竹素材楽器とインドネシア文化についてのつながりを自然にもつことが難しそうだった。	竹素材楽器が多い東南アジアの国々やインドネシアの伝統音楽を経験したり、文化について知ったりすることで、異文化理解を図ることできるように手立てをとった。
R5	複高	音楽	06_1_音楽科学	授業実践力	○竹素材の楽器の特性を生かして、音と音とがつながるように工夫する姿があった。	どのようにしたら音と音とがつながるのか、振り鳴らし方の工夫を考えながら練習できる手立てをとった。
R6	小3	音楽	06_1_音楽科学	授業実践力	○自分が演奏する以外の箇所でも、友達が演奏する音色を味わって聴く姿があり、グループの最後に演奏する児童は、その音階の中心音になるように、意識しながら音楽づくりをしていた。	五音音階の響きを味わいながら、始まりや終わりの音をその音階の中心音になるように、音楽のまとまりを意識できるような声かけを行った。（五音音階）
R6	小3	音楽	06_1_音楽科学	授業実践力	○都節音階と民謡音階の旋律の動きから生み出される雰囲気を比較しやすいように、それぞれの音階に調弦された箏を実際にナガシヅメやヒキレンで演奏することで、より音階の響きの違いを味わう姿があった。	日本の伝統的な音楽は、音階の構成が少し違うだけで雰囲気の違う独特の世界であることを感じることができるよう、音楽づくり活動を通して、旋律の特徴や音階の関わりを聴き取ることができる活動を設定した。
R4	中1	音楽	Microsoft Word	授業分析・評価力	○教師のアドバイスを参考しながら創作活動を行う姿が見られた。	教師が生徒たちの演奏を別室できく機会を設け、音楽的な表現の工夫について指導を行った。